

◆【海員随想】 犬好きか猫好きか① 武政 博

僕の文芸のパートナーは、猫好きなのか自分のことを「猫ちゃん」と、僕に呼ばせる。

彼女は、書道四段の腕前、その上に絵も描けば、童話もエッセイも書くマルチ人間。年齢は50歳、人の妻であり、一人息子の母親でもあるのに、自分のことを猫のように思っているのか、時折は猫声を出して僕を呼ぶ。

それで僕は彼女のことを「ネコちゃん」と呼んだり、本名に近いニックネームで「カコちゃん」と呼んだりしている。

そのカコちゃんたる彼女、当然猫を飼っているだろうと思ったら、そうではない。これまでの人生で「猫」を飼ったことがないし、現在も飼っていない。

まっ、彼女の夫に言わせれば、彼女自身が猫そのものだから、飼っているようなものだから。なるほどそう言われれば納得できるというもの。

この世の中には「犬好き」と「猫好き」のどちらが多いのだろうか。数字上のことは分からないにしても、圧倒的に「犬好き」が多いように思われる。

僕の文芸仲間千葉在住の童話作家に「伊藤ふみ」という人がいるが、この女性は犬と猫を同時に飼っている。現在は猫を4匹、大勢とも思える猫群のなかに犬1頭。名前は「モップ」。1年前に16歳で亡くなったアンジェロ(名前)のかわりに、ペットショップで見つけたスコッチテリアの幼犬だ。

名前の由来は、迷い犬のスコッチテリアが来た時に付けた名前だそうで、この犬を見つけた時、このモップを思い出して急に犬が欲しくなり、それでこの犬の名は「モップ」しかないと決めたのだという。

犬の名は千種万種あって面白いが、猫の名前は意外と簡易なものが多いように思われる。

伊藤さんたち物書き仲間、犬猫好きの仲間たちが発行している雑誌「森(ひょう)の会」の同人たちが飼っている猫の名を例にあげてみると「ロク、ナナ、クー」高島さんとは「しずこ」海藤さんとは「クロ、オキタ、チビネコ、トラ」館林さんとは飼い猫ではなく野良猫を可愛がっていて名前は「白ノラ」etc。

野良猫といえば、飼い猫ではないが野良猫を飼っている人、いや、可愛がっている人は意外と多いし、拾ってきて飼い猫としている人も多い。

よっちゃん、書道の腕はプロ並みで、実は大会社の社長夫人だったりするが、人間の良さも抜群。僕の文芸パートナー、カコちゃんの書道仲間だ。

自宅の軒下に逃げ込んできた野良の子猫を見つけたとか。

目に怪我をしている様子に、このままだと失明するかもと思い、抱き上げてご主人に相談。動物病院に1週間余りの入院中に目の治療、ついでに避妊手術まで受けさせお迎えの準備万端。名前は「クウー」。人間への警戒心や恐怖もしだいに遠のき、今では堂々の家猫となっているらしい。